

掛合小学校 校報 ましみず

〈第6号〉
平成22年10月発行

第3回・掛合小学校運動会の開催！！

猛烈な暑さが和らぎ、穏やかな秋晴れの下、多くのご来賓の皆様、保護者の皆様にお出かけいただき、第3回掛合小学校運動会を開催しました。(9月26日)

子どもたちは、この日のためにいろいろな練習に取り組んできました。なかでも応援は、6年生のリーダーを中心に、自分たちでいろいろなアイデアを出しながら、練習してきました。

当日、子どもたちは、今までの練習の成果を十分発揮し、精一杯頑張ることができたと思います。大変立派でした。また、来賓の皆様・高齢者の方・保護者の皆様といっしょに行ったふれあい競技は、大変ほほえましく思いました。これを機に、さらに親子のきずな・地域のつながりを深めていただけるものと期待しています。

ご声援いただいた皆様に、深く感謝いたします。ありがとうございました。



いろいろなことにがんばる「かけやの子」〈表彰関係〉

何でもがんばる掛合の子どもたち。いろいろなことに挑戦し、表彰を受けましたので、下記のとおり紹介します。今後も、図画展など、いろいろな分野での活躍を期待しています！！

〈読書感想文コンクール〉

優良賞	1年	佐藤萌江さん	題名：ずっとなかよし	書名：おねとんとん
優良賞	2年	中村陽菜さん	題名：うれしいがいっぱいになあれ	書名：うれしいがいっぱい
優良賞	3年	佐藤 歩さん	題名：点子ちゃんを読んで	書名：点子ちゃん
優良賞	4年	片石裕梨さん	題名：悲しそうな顔のえっちゃん	書名：えっちゃんのせんそう
優良賞	5年	佐藤冴江さん	題名：思いやりをもって	書名：リキシャ★ガール
優良賞	6年	中岡志おりさん	題名：生きるための命	書名：犬たちをおくる日

〈科学作品展〉

特選	3年	横貝伸樹さん	くけっしょうを作ろうパート3	>
	5年	景山祐夢さん	石の歴史を解き明かせ	>
	6年	落合志帆さん	紫外線にご用心	>
入選	1年	福場彩加さん	かいすいからしおをつくる	> 安井悠大さんくぼくのマジック
	3年	渡部愛美さん	せみのせい長しらべ	>
	6年	深津里紗さん	水性ペンのひみつ	> 白菊帆乃佳さんく紙は材料を変えてもできるの？
		板垣志歩さん	くもりを防ぐには	>

〈硬筆書写コンクール〉 ※金賞のみ掲載

金賞	4年	藤坂有加さん	5年	小豆澤真帆さん	洞ノ上陽貴さん
	6年	板垣志歩さん	永瀬七夏海さん	深津里紗さん	

〈税に関する絵はがきコンクール〉

雲南市支部長賞	6年	永瀬七夏海さん	入選	6年	勝部学美さん
---------	----	---------	----	----	--------

〈島根県学生児童発明くふう展〉

島根大学産学連携センター長賞	1年	藤原隆星さん	くワガタゲッチュ1ごう	>
----------------	----	--------	-------------	---

ふるさと祭りでの太鼓の発表！！

10日に行われたふるさと祭りでは、5・6年生の子どもたちが、掛合太鼓の発表を行いました。この日は、保存会の方、中学生といっしょになっての発表でした。全員がそろって、大変迫力があり、掛合の伝統を大いに感じることができました。今までご指導いただいた方々に、大変感謝しています。

また、大勢の観客の皆様には、大きな拍手をいただき、ありがとうございました。



ミニバスケットボール大会



15日には、雲南市小学生ミニバスケットボール大会が開催されました。本校は、児童数の関係で、大規模校として、大東小・木次小・三刀屋小・加茂小と同じゾーンで対戦しました。2試合しましたが、男子も女子も1勝1敗という成績でした。この大会に向けて、1学期後半から練習を重ね、猛暑の夏休みにも練習をしていました。その練習の成果が十分に発揮したと思います。また、大会を通して、他の学校の子もたちとも、交流できました。大会で学んだことを、今後の学校生活に生かしてほしいと思います。

環境整備作業

10月17日（日）に、保護者の皆様・教職員で、学校内の環境整備作業を行いました。この日は、窓拭きを中心に行っていただきました。皆さん、精一杯作業を行っていただき、ずいぶんきれいになりました。きれいになった教室で、子どもたちと気持ちよく勉強ができます。

お休みのところ、学校のため、子どもたちのために、ご協力いただきまして、本当にありがとうございました。



養護学校での勤務を通して学んだこと……

私が教師（講師）として初めて教壇に立ったのは（昭和57年）、三重県立緑ヶ丘養護学校でした。ここは、病弱児を対象とする養護学校で、大里病院と隣接していました。子どもたちは、入院中の大里病院から登校してきます。中には、学校まで行くことができない子どももいて、私たち教員が病院へ出向くこともありました。病状はさまざま、肥満や喘息などの比較的軽度の子どもから、若くして死を覚悟しなければならない重い病気の子もいました。

健常児と同じように学習できる子どももいれば、病室のベッドで授業を受ける子どももいたので、学習方法を工夫する必要がありました。

私の担当した児童の一人は、全身が不自由で、ベッドから離れられず、字を書くこともできませんでした。しゃべることも、笑うことも少ない女の子でした。この子に、どのように接していったらよいか、どのように勉強を教えるべきかを考えるのが、私の悩みでした。そこで、その子にあった指導方法を見つけようと努力しました。しかしながら、教職経験の少ない私には、なかなかよい方法が見つかりませんでした。それでも、何かを伝えよう、いっしょに何かをしようと、いろいろなやり方に挑戦していったように思います。紙芝居をしたとき、紙芝居の道具の箱のすきまから、笑顔が少し見えたことが、今でも印象に残っています。

この学校には、病気で生まれてほしいと思っていた子どもは一人もいません。誰もが、みんなと同じように勉強したい、運動をしたい、笑いたい、笑顔でいたい、友達を作りたいと思っていました。だから、この子どもたちには、短期間の間に、一人でも多くの子どもや大人とかかわりを持たせてやるのが大切でした。周りの人たちは、子どもたちのことを十分理解し、時には温かく、時には厳しく、健常児と同じように接してあげることが必要なのです。このように、誰もが同じように生活し、勉強できる環境を整えていくことが、大切なことではないでしょうか？私たちの周りも、今一度、点検してみる必要があると思います。（校長 山根 毅）